

京都力の発揮

(1) 人づくり 次代の京都を担う人や、世界を舞台に活躍する人づくりの京都へ

現
状
・
課
題

- ◇京都府は、人口当たりの大学・短期大学の数がいずれも全国一であり、大学生による様々な活動が地域に活力やにぎわいをもたらしています。
- ◇日本に来る留学生の数が増加傾向にある中、京都府は、留学生の数で全国の上位にあり、こうした人材が地域社会の様々な営みに積極的に参画できるようなしきみの拡充が求められています。
- ◇近年、若者の間に内的志向が見られ、国際感覚やコミュニケーション能力を身に付けるための機会を得にくい状況となっています。
- ◇京都府には、大学や世界的な研究機関が数多く立地しており、こうした資産を最大限いかした地域活性化のための取組や、研究機関間、異分野間のさらなる交流促進の取組が求められています。

- ◇伝統産業や農林水産業をはじめ様々な分野で、専門的な知識や技能を身に付けるためのしきみをさらに拡充することが求められています。
- ◇京都の強みである観光や映画・映像芸術などの新しい分野で、成長をリードしていく専門的な人材の育成や、人材間の交流ネットワークづくりが求められています。

- ◇まちづくりをはじめ、地域における様々な住民活動に参画する人が増えており、そうした活動を牽引する地域リーダーのさらなる育成が求められています。

対
応
方
向

- 大学生による自主的・創造的なイベント等の実施を支援するとともに、留学生の生活支援や就職支援を進め、地域活動やボランティアへの参画を促すなど、大学生による多彩な活動を活発化させます。
- 外国語教育の充実や国際交流事業への青少年の参画促進により、世界を舞台にグローバルに活動する人材を育成します。
- がん治療、食糧・バイオなどの分野で、世界に貢献する最先端の学術研究を推進します。

- 伝統産業や農林水産業を支える人材を育成するための教育機関の設置や、実践技術の習得支援の充実、新たな分野の専門人材を育成する人材バンクの創設を進め、分野ごとの発展を牽引する専門人材を育成します。

- 公共人材養成プログラムづくりなどを通じて、地域に根ざして活動する優れた地域リーダーを育成します。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界に貢献する最先端の学術研究を推進すること ○ 分野ごとの発展を牽引する専門人材を育成すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界的に評価される研究成果が上がること ○ 各分野で将来を担う人材が育つこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関西文化学術研究都市において、学術研究機関の集積をいかし、「健康・医療」「食糧・バイオ」「環境・エネルギー」「情報通信」などの分野で、世界最先端の研究を推進します。 ○ 伝統産業をはじめとするものづくり産業を振興するため、知識と技能を兼ね備えた未来の職人を養成する高等教育機関の設立を推進します。 ○ 高等技術専門校における産業ニーズを踏まえた職業訓練と就業支援の強化により、次世代の京都経済を支えるものづくり産業の人材育成に取り組みます。 ○ 森林整備や木材生産はもとより、木質バイオマス等の未利用資源の有効活用や地球温暖化防止に貢献する環境ビジネスなど、経営感覚にも優れた人材を育成するため、林業専門の大学校をつくります。 ○ 実践農場、実践牧場、実践漁場での実践的な研修、雇用の受け皿となる農業法人等の育成などを通じ、農林水産業の担い手となる新規就業者を育成します。 ○ 観光、映画、コンテンツなどの分野において、専門的な人材の育成や人材のネットワークづくりを行う人材バンクの創設などに取り組みます。 ○ 国民文化祭の開催・準備等への参画を通じ、文化を起点とする産業、観光、行催事等を企画運営するノウハウと人脈を持った人材の育成に取り組みます。 ○ 地域づくりに関する実践的知識や技術を持った人材を養成するためのプログラムの作成・実施や人材交流支援などにより、地域社会における公共活動を担う人材づくりを推進します。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に根ざして活動する優れた地域リーダーを育成すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に根ざしてまちづくりを牽引する人が増えること 	

(2) 環境の「みやこ」

持続可能な人類社会のモデルとして、世界の範となる環境を実現する京都へ

現 状 ・ 課 題

- ◇グローバルな気候変動を引き起こす二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量は、地球全体で増え続けています。
- ◇経済発展とともに増加した廃棄物の量は、減少傾向にはあるものの、依然として高止まりの状態にあります。
- ◇化石燃料に多くを依存した多エネルギー・大量生産・大量消費・大量廃棄型のライフスタイルからの転換が求められています。
- ◇地球環境問題に対応する新しい技術・製品・サービス等の開発・普及には、なお進展の余地があります。

対 応 方 向

- 府民のライフスタイルの転換を促すとともに、環境関連製品等の生活への導入を進め、化石燃料への依存を極力抑えた持続可能な低炭素社会をつくりまします。
- 産業廃棄物減量促進の拠点となるセンターの開設などにより、リユースやリサイクルの資源循環のしくみを確立し、循環型社会を形成しまします。

- ◇京都府は豊かな自然環境に恵まれています。農山村では過疎・高齢化が進む中、手入れされず放置される森林が増加しており、こうした自然環境を保全していく取組の拡充が求められています。
- ◇ライフスタイルの欧米化が進む中で、町家暮らしに代表されるような、四季折々の自然の変化と調和して暮らしてきた生活文化の価値を今一度見つめ直し、次世代に継承していくことが求められています。
- ◇子どもの頃から環境について学習・体験できる機会を学校や地域の中で拡充していくことが求められています。

- 地域住民、NPO、企業等と連携・協働した取組を進め、優れたまち並みや景観、自然環境や生活環境を創出しまします。
- エコ住宅の建設、きものの着用、地産地消など様々な生活の取組を総合し、自然環境と調和した暮らしを推進しまします。
- 環境学習、環境イベント、環境交流などの取組を積極的に推進し、人々の環境意識を高めまします。

- ◇在来生物の生息地の破壊、外来種の繁殖などによる生物多様性への脅威が高まっており、地域固有の自然や生態系を保全するための取組を、多様な主体の協働によって進めていくことが求められています。

- 生物多様性地域戦略の策定などにより府民理解を促すとともに、府民協働で希少野生生物の保全回復を図るなど、生物多様性を保全しまします。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
○ 低炭素社会をつくること	○ 府内のCO ₂ 排出量が減少すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期的な視点も踏まえつつ、温室効果ガス排出量の政府目標を上回る積極的な削減目標を明示した「京都府地球温暖化対策条例」により、京都府全体で温室効果ガス排出量削減に取り組みます。 ○ 中小企業の省エネ対策や森林整備、再生可能エネルギーの導入によって生じる二酸化炭素の削減価値（カーボンクレジット）を地域で取引する制度を創設します。 ○ 公共施設への率先導入や家庭・事業所等への導入支援により、太陽光、風力、小水力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの活用を進めます。 ○ 低炭素化や資源の循環利用を進め、環境負荷の小さいまちづくりを推進します。 ○ 関西文化学術研究都市において、環境共生型住環境の整備や低炭素型次世代交通システムの構築などを通じた「持続可能なモデル都市づくり」を推進し、世界に発信します。 ○ 製造過程における資源の有効活用など府内企業の二酸化炭素排出削減対策を支援することにより、産業部門の低炭素化を推進します。 ○ 自動車から徒歩、自転車、公共交通機関への転換や電気自動車の普及促進などにより、運輸部門の低炭素化を推進します。 ○ 多くの人が気軽に参画できる新たなエコポイント事業を創設し、家庭部門での低炭素化を推進します。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 循環型社会を形成すること ○ 優れたまち並みや景観、自然環境や生活環境を創出すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リユースやリサイクルをはじめとした資源循環のしくみが確立されること ○ 優れた景観の保全・創出箇所が拡大すること ○ 廃棄物の不法投棄が抑止されること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 太陽光発電の導入支援や断熱性能の向上等により住宅の環境性能を高めるとともに、市町村等と連携した効果的な普及・啓発により、家庭部門の低炭素化を進めます。 ○ 府内産木材を使用した住宅の建築・購入や、地産地消による輸送にかかるCO₂排出量削減などの取組を促進し、地場資源の活用による消費部門の低炭素化を推進します。 ○ 事業スタイルの見直しの提案、技術開発等への支援、事業者間のネットワーク構築により、資源循環を促進するとともに、産業廃棄物減量促進の拠点となるセンターを開設します。 ○ 資源の消費量や廃棄される物を減らすライフスタイルの転換を府民に提案します。 ○ 山陰海岸ジオパーク構想、由良川・桂川上中流域の国定公園指定、天橋立の世界遺産登録に向けた取組や阿蘇海の再生などを進めるとともに、地域の優れた自然環境や景観を守る取組を推進します。 ○ 鴨川条例による良好な河川環境の保全並びに下流域の公共空間の整備を推進します。 ○ 住民、ボランティア、NPO、企業、行政の連携・協働により森林整備等を行うモデルフォレストの手法を応用したモデルリバー運動により、河川環境の保全を図ります。 ○ 日常の監視パトロールや指導を強化し、早期発見・早期対応による事案の解決に取り組むとともに、発生した違法行為については、迅速・厳正に対処します。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 騒音や大気・水質などの状況が改善されること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市街地の幹線道路の騒音対策、自動車排ガス対策や生活排水対策などにより、快適な生活環境の実現を図ります。 ○ 戦略的環境アセスメントを導入し、事業の早期段階における環境配慮を徹底します。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然環境と調和した暮らしを推進すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然環境と調和したライフスタイルが拡大すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都の資源と文化を基盤として異なる分野の交流を広げ、エコ住宅、電気自動車、きもの、旬の京野菜、地産地消、ウォーキングの普及など、多様な取組を総合的に推進します。 ○ 地産地消応援宣言や統一ロゴの表示、産消提携センター（仮称）や京都産マーケットの開設支援などにより、地産地消、旬産旬消の普及を図ります。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 人々の環境意識を高めること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境について理解を深める機会が拡大すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「KYOTO地球環境の殿堂」の本格展開を図るとともに、「京都環境文化学術フォーラム」を殿堂表彰式と一体的に開催し、地球環境問題に対する府民意識の向上を図ります。 ○ 府立学校にエコ設備を積極的に導入するとともに、環境学習の推進や環境保全の取組間の相互交流を促進するなど、地域に根ざした環境教育の充実を図ります。 ○ 「フォレストレンジャー」の育成や推進センターの設置等により、モデルフォレスト運動への府民、企業等の参画を拡大し、二酸化炭素吸収源である森林資源の持続的な育成を推進します。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物多様性を保全すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な生き物の生命が大切にされること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都府レッドデータブックの更新、生活、産業、公共事業等の分野ごとの具体的取組等をまとめた生物多様性基本戦略の策定により、生物多様性保全意識の醸成を図ります。

(3) 文化創造

豊かな伝統文化を継承し、新しい文化が次々と萌芽する卓越した文化力のある京都へ

現
状
・
課
題

◇京都には、貴重な文化財や古典が数多く引き継がれ、また、様々な宗教の本山、茶道、華道、日本舞踊の家元、能・狂言の各流派などが集積し、日本の精神文化のより所となっていますが、それらに裏打ちされたきもの、伝統工芸、京料理などの文化が日本人の生活の中から少しずつ失われようとしています。

◇ライフスタイルの欧米化が進む中で、特に若者を中心として、京都文化（日本文化）への関心や、ふれ合う機会が少なくなっています。

◇府内各地域の歴史等に根ざした個性豊かな祭礼行事、伝統芸能などの伝統的な地域文化が少しずつ失われようとしています。

◇地域社会の絆の希薄化や過疎化の進行に伴う後継者不足により、伝統的な地域文化に人々がふれ合い、体験する機会が少なくなっています。

◇アニメーションなどの新しい文化の創出につながる文化・芸術活動や、スポーツ振興などの取組のさらなる拡充が求められています。

◇芸術家などが自らの作品を新たに発表するとともに、府民が文化・芸術活動やスポーツを身近に楽しめる場所や機会の拡充が求められています。

対
応
方
向

○京都文化を体感できる機会の充実等により、京都文化を継承し、発展させます。

○国民文化祭の開催等を契機として、祭礼行事・伝統芸能などの復興や活動支援を進め、地域の文化を守り、発展させます。

○府内各地域の文化拠点や公園・スポーツ施設の整備などを進め、新しい文化・芸術、スポーツを振興します。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
○ 新しい文化・芸術、スポーツを振興すること	○ 新しい文化・芸術、スポーツの拠点づくりや活動が拡充されること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱、吹奏楽、吟詠剣詩舞、美術、文芸などの分野別事業のほか、京都の伝統文化や地域の独自事業を盛り込んだ京都ならではの国民文化祭の開催を通じて、芸術文化活動の充実を図ります。 ○ エントランス、森のカフェ、植物殿堂館などを整備し、一人でも多くの府民等に足を運んでいただける植物園づくりを推進します。 ○ 京都のシンボルである鴨川を核にして、周辺に立地している文化産業スポットをネットワーク化し、文化回廊や新しい文化体験の場として活用します。 ○ 市町村・経済界等と協調し、スポーツ施設のあり方の検討や府民の声等を踏まえ、サッカースタジアムの実現に向けた取組を推進します。 ○ 淀川三川合流域における公園の整備や山城総合運動公園（太陽が丘）、丹波自然運動公園など、スポーツ施設を整備・充実します。 ○ スポーツ大会の誘致、ウォーキング・イベント等の開催、学校等を拠点とした開放型地域スポーツクラブの育成など、多様な形でスポーツを振興します。

(4) 産業革新・中小企業育成

京都経済を支える中小企業が安定した経営を行う中で、未来を切りひらく産業のイノベーションが進展する京都へ

現
状
・
課
題

◇京都には、伝統産業や世界的なハイテク企業が数多く集積し、ものづくり産業の一大拠点を形成していますが、京都経済の成長は鈍化傾向にあります。

◇製造業の多くが成熟産業化しつつある中で、世界的なハイテク企業に続く新たな企業の成長・発展が期待されています。

◇経済成長著しい中国をはじめとするアジア地域の需要を獲得するための戦略的な取組が求められています。

◇世界的な不況の影響もあって、京都経済を支える中小企業や地場産業が厳しい経営環境にさらされています。

◇グローバルな競争が激化する中で、中小企業や地場産業が競争に打ち勝つための投資資金を確保することが難しくなっています。

◇京都を訪れる観光入込客数は、京都市内を中心に増加傾向にあり、こうした動きを府域全体へ展開していくことが求められています。

◇従来の画一的な「物見遊山」型観光から、個々人のニーズに合わせた「参加・体験」型観光へと観光ニーズが多様化・高度化する中、世界規模での観光地間競争が激化しています。

◇府域全体への観光誘客のために、観光資源の魅力の向上とともに、交通アクセス等のインフラ整備や誘客プロモーションの実施、観光産業の担い手となる人材の育成などが求められています。

◇京野菜や黒大豆・小豆、丹波くり、丹後とり貝等の「京のブランド産品」全体の販売額は近年、伸び悩み傾向にあり、新たな展開が求められています。

◇宇治茶については、日本を代表する高級ブランドとして広く流通していますが、全国的な茶価低迷の影響が出始めています。

◇農林水産物の産地間競争や消費低迷などに対応するため、新たな販路開拓や新商品開発など、収益性を高める取組が求められています。

◇農業就業人口の減少と、全国を上回る高齢化が進行する中、将来を担う若者が魅力を感じる農業のビジネスモデルの創出が求められています。

対
応
方
向

○環境、健康、コンテンツなど世界経済の成長分野を軸にして、産学公連携などによる研究・技術開発を進め、京都の特性をいかしたブランド産業を育成します。

○中国において試作やエコ、ウエルネスの販路開拓の支援拠点を設置するなど、世界との産業交流を進めます。

○中小企業の高度化や人材育成、技術開発などに大規模な投資を行うなど、地域に根ざして京都経済を支える中小企業を守り、発展させます。

○観光交通機関の導入やインセンティブツアー等の誘致、学び観光コースの開設などにより、質の高い観光への進化を図り、京都観光を成長・発展させます。

○収益向上のための技術革新やさらなるブランド化、新商品開発とともに、アジア地域等の海外市場の開拓を進め、農林水産物の付加価値を高めます。

○人材育成や商品開発、販路・市場開拓など総合的な支援を展開し、農林水産業を基軸として産業を活性化させます。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都の特性をいかしたブランド産業を育成すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都の強みや技術力をいかした産業が育つこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産学公連携などにより持続可能な環境・経済・社会の実現のための研究・技術開発を推進し、産業構造の変革と新しい産業の創出を促進します。 ○ 環境、健康、映画、情報、試作など次代を担う産業の育成や、中小企業の創業・成長等の支援を行う「京都産業育成機構（仮称）」を創設します。 ○ 地域の条件や特性に応じた戦略的な企業誘致を推進し、安定した雇用を確保するとともに、地域の産業活性化や地域特性をいかした産業集積を図ります。 ○ 独創性のある環境対応型の技術の発掘や京都ならではのエコ製品の認定から実用化・販路開拓等を一環してサポートするなど、企業の環境分野への進出を支援します。 ○ 映画産業等の集積をいかし、新しいメディア・コンテンツ産業の振興を図るため、企業支援、国際交流、観光振興、人材育成等を総合的に推進します。 ○ 伝統工芸品や生活雑貨等で海外展開している企業と連携し、京都ブランドの市場開拓を推進します。 ○ 伝統産業、食品産業等のコラボレーションを進め、消費者から大きな感動や共感が得られる感性価値の高い製品を開発し、国内外で新たな市場開拓に取り組みます。 ○ 知的資源をいかした非価格競争で活躍する独創性の高い中小企業を育成し、知恵産業のまちづくりを推進します。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界との産業交流を進めること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老舗のノウハウや技術力の継承が進むこと ○ 京都ブランドが拡大・浸透すること ○ ものづくり等による国際交流が進むこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都の誇る1700社に及び老舗表彰企業をネットワーク化し、家訓の再評価、経営哲学の研究、社会貢献活動の実践など、老舗の力を活用した活動を推進します。 ○ 和装・伝統産業の次世代への技術の継承、産業を支える人材育成及び新たな需要開拓を図るため、きものを着用する機会の創出や新伝統産業創出事業などを総合的に推進します。 ○ 伝統産業の体験を通して日本の生活文化の良さを内外に発信し、伝統産業や観光産業の振興を図るため、「伝統産業体験工房・京都」を整備します。 ○ 全国1位を誇る地域団体商標の効果的な活用と新たな資源の掘り起こしによる登録数の拡大を図ります。 ○ 産業集積のさらなる拡大と発展を図るため、エコやウエルネスなどの成長産業の誘致や産学公連携による中小企業の新分野進出、ベンチャー企業の育成などを推進します。 ○ 府南部地域を中心とした産業集積の中核として、エコや新エネルギー、食糧などをテーマとした新たな研究開発拠点機能の整備を図ります。 ○ 京都のものづくり企業が得意とする試作やエコ、ウエルネスなどを中心に販路開拓を支援するための拠点として、中国市場のゲートウェイである上海市内に設置した「東アジア中小企業市場開拓支援センター」を核に、企業支援の人材ネットワークを構築します。 ○ 「絹」等の京都に関連の深いテーマのもとで、文化、産業、先端技術の国際的な交流を推進し、関連産業の新たな展開を図ります。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に根ざして京都経済を支える中小企業を守り、発展させること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都舞鶴港を通じた交易が活発化すること ○ 中小企業の業績が向上し、倒産・廃業が減ること ○ 地域の力を活用した産業が育つこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ トスカーナ州とのデザイナー相互派遣など、匠の技を持った人材の国際交流を推進し、新たなビジネスチャンスを創出します。 ○ 京都舞鶴港の地理的優位性をいかし、成長著しい中国東北部やロシア極東部等と、それぞれの地域の特長やニーズを踏まえた物流・人流の拡大を図るため、航路の安定化・拡充に努めます。 ○ 多様性を誇る京都の中小企業の良さを守り、新たなビジネスチャンスをひらくため、京都府中小企業応援条例に基づき、中小企業の高度化や人材育成、技術支援などに対し、大規模な投資を行います。 ○ 「中小企業応援隊」「伝統産業・きもの応援隊」など産業の応援隊を結成し、伝統産業や地場産業の振興などを総合的に応援します。 ○ 京都経済を支える中小企業の経営を支援するため、京都市と協調して緊急対策資金融資等の中小企業金融対策を推進します。 ○ 商工会・商工会議所の経営支援員、中小企業団体中央会、金融機関などで結成するチームによる巡回訪問を行うなど、オール京都体制で中小企業の経営をサポートします。 ○ 商店街の魅力やにぎわいが継続・発展するよう、商店街等の様々な取組を支援します。 ○ 元気な地域づくり応援ファンドやきょうと農商工連携応援ファンド等を活用し、地域資源をいかした特色ある創業や円滑な事業継承への支援を推進します。 ○ 地域に貢献できる優良な建設産業の育成に向けて、地域密着型公共事業の一層の推進を図りながら、技術力の向上など人材育成、新しい分野への進出支援等を行います。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
○ 京都観光を成長・発展させること	○ 京都観光のマーケットが拡大すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府域の観光地の特色をいかしながら、トロッコ列車、マリンビュー列車、お座敷列車、観光スポットを結ぶうぐいすバスなど、楽しい観光交通機関の導入を図ります。 ○ インセンティブツアーや企業コンベンション等の誘致などにより、京都を訪れる観光客やビジネスマンを増やします。 ○ 京都の奥深い魅力に触れるため、少人数で専門家の解説を聞きながら回る、学び観光コースを開設します。 ○ 府域全体で、地域ブランドに沿った観光スポットを1日（日帰り）で回るワンデー観光プログラムを作成し、近在の住民の潜在観光需要を掘り起こします。 ○ 地球温暖化など現代社会の様々なテーマを設定し、専門家を交えて参加者が語らいながら関係のスポットを巡るアカデミックな観光ツアーを創設します。
○ 農林水産物の付加価値を高めること	○ 農林水産物の生産と従事者の所得が拡大すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新技術や新品種の開発とその普及による収益性の高い農産物の産地づくりや、高密度路網や高性能機械による森林整備の集約化・機械化、養殖をはじめとしたつくり育てる漁業等を推進します。 ○ 黒大豆や小豆、京野菜・畜産物等が産地間競争に打ち勝てるよう、生産組織の法人化や経営強化、生産性向上に向けた取組などを支援します。
	○ ブランド農林水産物の販売が増えること	○ ブランド京野菜、宇治茶、京都米、京都肉、丹後とり貝などに地域ブランド品も含めた農林水産物（ほんまもん京ブランド）のブランド力強化や新商品開発を推進し、府内外での消費拡大を促進するとともに、京料理など京の食文化も含めた輸出拡大に取り組みます。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林水産業を基軸として産業を活性化させること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林水産物の生産のみならず加工や販売による農業ビジネスに取り組む農林漁業者が増えること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「京都アグリビジネス21」を創設し、人材育成や新規就農者の定着、農業ビジネス、法人化、農業参入を支援する総合的な体制を強化するとともに、「食の試作ネットワーク」による商品開発や輸出促進、経営への助成など総合的なアグリビジネスの展開を図ります。 ○ 「農山村ベンチャー応援隊」「丹後のさかな応援隊」を結成するとともに、きょうと農商工連携応援ファンドなどを活用した農商工連携や6次産業化による新商品開発や新たな販路・市場開拓などを総合的に支援します。

(5) 交流連帯 府域の内外を快適に移動したり、情報をやりとりでき、世界中から人々が集い交わる京都へ

現 状 ・ 課 題

◇高速道路のミッシングリンク（不連続箇所）や鉄道単線区間が存在するなど基幹的な交通基盤が未だ整備途上であり、地域間交流や物流の活性化の支障となっています。

◇過疎地域などにおいて、人口減少等により多くの公共交通機関の採算が厳しくなる中、路線廃止等により、高齢者や子どもの移動手段を確保できない地域が出てきています。

◇ブロードバンドや携帯電話、地上デジタル放送などの情報通信基盤の整備に伴い、情報の交流のツールとして情報通信技術（ICT）がますます重要となっています。

◇京都における国際会議の開催件数は増加傾向にあり、それらの機会を十分に活用し、国際交流のさらなる拡大につなげていくことが求められています。

◇国際交流の拠点となる施設の整備や、海外の機関との提携・連携の促進、人的ネットワークづくりなどが求められています。

対 応 方 向

○高速道路の不連続箇所を早期に解消するとともに、鉄道の利便性を向上し、府域の内外を移動しやすくします。

○府民の支援と協力のもとに公共交通機関の利用拡大を図り、暮らしの足を確保します。

○いつでも、どこでも、だれもがICTの利便性を享受できるコビキタスネット社会（あらゆるところで利用可能なネットワークが配備された社会）にふさわしいICTの環境整備や利活用の推進を通じ、暮らしの中で情報の交流をしやすくします。

○関西文化学術研究都市への研究機関等の立地や、アジアのサイエンスパークとの提携等を進め、京都を文化学術研究の交流拠点とします。

○京都迎賓館の有効活用や国際会議場等の整備を進め、世界の優れた人材が京都に集まるようにします。

【 使 命 】	【 基 本 目 標 】	【 具 体 方 策 】
○ 府域の内外を移動しやすくすること	○ 移動にかかる所要時間が短縮されること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都縦貫自動車道、新名神高速道路、鳥取豊岡宮津自動車道などにおいて、地域間交流の支障となっている高速道路の未完成区間を早期に解消します。 ○ JR奈良線の複線化、北近畿タンゴ鉄道（KTR）の利用拡大など、鉄道利用の促進に向けたプロジェクトを推進します。 ○ 生活交通と通過交通を分離する地域高規格道路、港湾、鉄道の駅や高速道路のインターチェンジ周辺の整備など、交通基盤の整備を推進します。 ○ 鉄道の駅やバスターミナルを中心に周辺整備を行うとともに、必要な便数の確保を行うなど、徒歩や公共交通で移動しやすいまちづくりを推進します。
○ 暮らしの足を確保すること	○ 府域全体で生活移動基盤が拡充されること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道不便地域の道路、災害時等の緊急輸送道路、医療施設や観光地へのアクセス道路、地域間の連携を強化する道路など、住民生活に不可欠な道路の整備を推進します。 ○ すべての市町村に「地域公共交通会議」を設置し、バス路線の維持や中山間地域などの不採算地域における公共交通手段の確保のための取組を推進します。
○ 暮らしの中で情報の交流をしやすくすること	○ 府域全体でICTの利活用が進むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ いつでも、どこでも、だれもが情報を取得・発信し、交流を図ることができるよう、NPO等との協働による地域に根ざした支援等を通じて、ICTを活用しやすい環境づくりを進めます。 ○ 観光や健康・医療等の様々な分野で、最新のICTを積極的かつ適切にとり入れながら、産学公連携でICT利活用の取組を進めます。

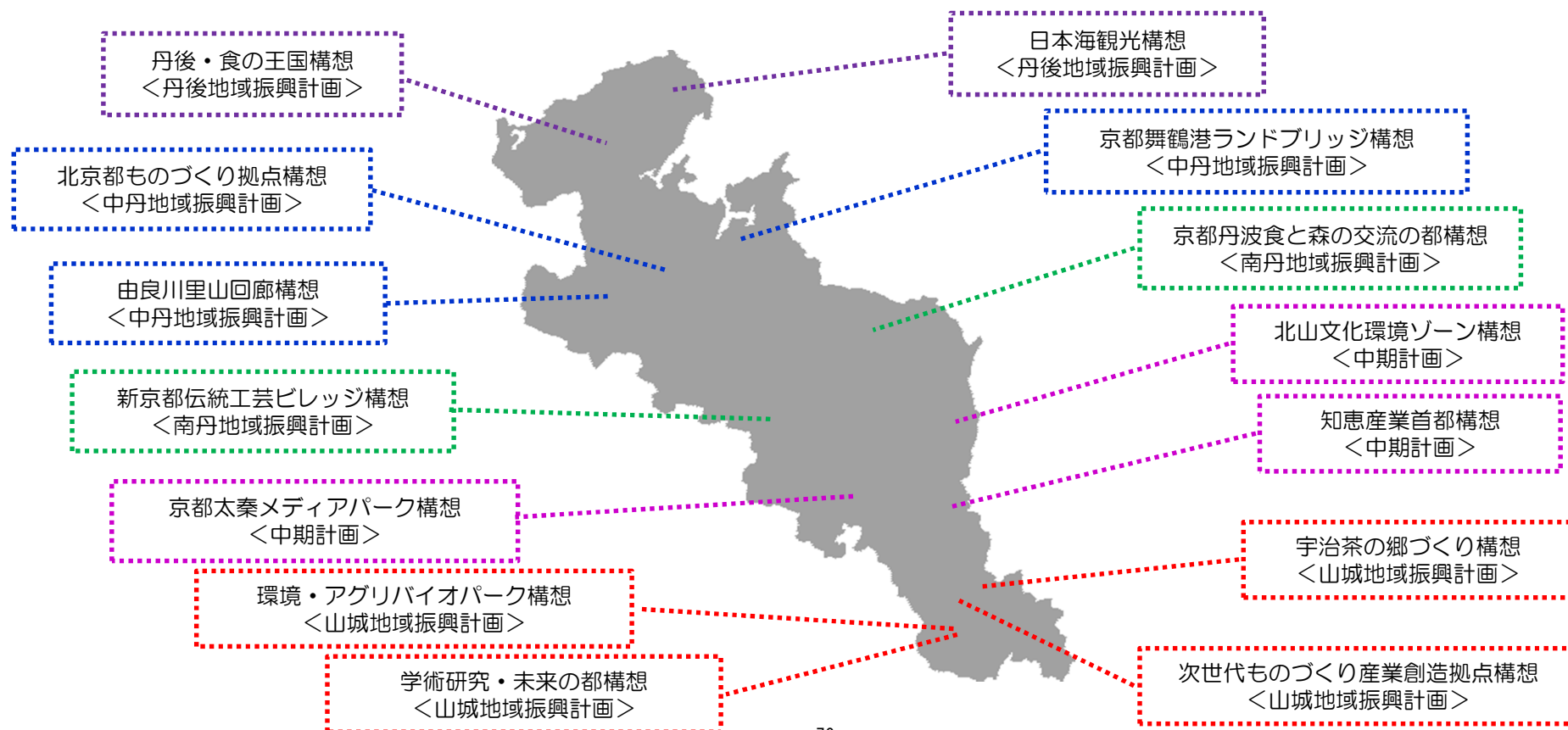
(6) 希望に輝く地域づくり それぞれの地域が「みやこ」となるよう夢のある地域構想が展開する京都へ

東京をはじめとする大都市に企業や人口が集中する一方、地方では、企業や工場の撤退に伴い、若者を中心に就業機会を求める人々の都市部への流出が続いています。

また、製造業の停滞や公共事業予算の縮減という時代の流れの中で、工場立地や公共事業により地域の雇用や経済を支えるという従来の手法も成り立たなくなってきています。

このような中、京都府では、すべての地域がその個性や資源を最大限にいかせるような夢のある構想を描くとともに、その実現に向けて、これらの構想を府内四つの広域振興局がそれぞれ策定する「地域振興計画」の主要プロジェクトに位置付けています。

また、①京都市域を舞台に京都府が展開する構想や、②京都市域はもとより、府域全体に波及効果のある京都府の主要な取組について、この「中期計画」に位置付け、「中期計画」と四つの「地域振興計画」を一体的に推進することにより、府域の北から南まで、すべての地域が活力ある「みやこ」として輝くことができるような地域づくりを進めていきます。



① 京都市域主要施策・事業

現 状 ・ 課 題

- ◇京都府は、京都市域において、鴨川をはじめとする河川管理や府立大学等における高等教育、さらには警察行政、労働行政など、府民生活をしっかりと守り支える行政サービスを提供しています。また、京都市内には、様々な分野における京都府の中核的な機関・施設等が数多く集積しています。
- ◇他方、京都府の人口、経済の6割近くを占める京都市は、京都府の核となる都市であり、歴史と伝統につちかわれた環境や文化の力、伝統産業や先端産業の有する洗練された感性や高度な技術、世界水準の学術研究機能など、京都ならではの優れた資源を最大限活用して、「もの」から「こころ」へ、「量」から「質」への時代にふさわしい、新たな成長・発展を遂げることが期待されています。
- ◇こうした中で、京都市域と他の地域が経済、産業、文化、観光等様々な分野の交流を通じてお互いの発展を支えることにより、府域全体に良い効果が波及するよう、広域自治体である京都府には、京都市の発展を多面的に促進しつつ、府域全体の広域的な調整を図っていくことが求められています。

対 応 方 向

- 治安、治水、高等教育、労働などの分野を中心に、引き続き、府民の暮らしをしっかりと守り支えます。
- 京都市の発展が府域全体の活性化になくならないとの広域的な観点に立ち、①府施設のストックの有効活用、②府市行政協働パネル等を通じた府市協調事業の積極的展開、③広域的な交流基盤整備や産業振興・雇用対策等に視点を置いて取組を推進し、市域の発展を促進しながら、府域全体の活性化に有機的に結び付けていきます。

府民安心の再構築

(1) 子育て・子育ての安心

児童虐待をはじめとする家庭問題について、「京都府家庭支援総合センター」を核に、専門チームによる複雑困難事例への対応や家庭復帰支援などの取組を強化します。

【具体的な取組】

- 京都府家庭支援総合センター（東山区）での取組強化

(2) 学びの安心

義務教育9年間を見通して、複数教員による授業や少人数授業、少人数学級などを学校の状況に応じて実施できる「子どものための京都式少人数教育」を拡充するとともに、好奇心や、自ら考え学ぶ意欲をはぐくむため、大学と連携した体験授業の充実などを推進します。

【具体的な取組】

- 京都式少人数教育の拡充（教員配置）
- 京都大学（左京区）など、京都市内の大学と連携した体験授業や教員養成・研修の充実
- 京都数学グランプリ、物理グランプリなどの実施
- 「もうすぐ1年生」体験入学事業の実施
- 京都府立ゼミナールハウス（右京区）での生涯学習拠点事業の推進

(3) 働きの安心

労働者団体や経営者団体をはじめ多くの関係機関や団体と連携・協働し、働く意欲のある府民の就業を支援します。

【具体的な取組】

- 京都ジョブパーク（南区）における就業支援の強化
- ライフ&ジョブカフェ京都（南区）における生活支援の強化
- マザーズジョブカフェ（南区）における子育てと就業を一体化した女性の就業支援の強化
- 京都・陶工高等技術専門学校における人材育成・確保の推進

(4) 医療・福祉の安心

「京都府立医科大学」の整備・拡充を進め、安定的・先進的な医療サービスを提供するとともに、好立地にある「ぶらり嵐山」を有効活用して、障害のある人の社会参画への理解を深めるなど、交流機会を拡大させます。

【具体的な取組】

- 京都府立医科大学（上京区）の整備・拡充（外来診療棟等）
- 京都府保健環境研究所（伏見区）の機能充実
- 「ぶらり嵐山」（右京区）運営への助成

(5) 長寿の安心

高齢者の多様な働き方のニーズにこたえ、高齢者の就業機会の拡大を一層進めるため、社団法人京都府シルバー人材センター連合会が進めるシルバー派遣事業や、地域社会に密着した社会参画の場の提供について、連携・支援します。

【具体的な取組】

- 社団法人京都府シルバー人材センター連合会（中京区）の取組支援

(6) 暮らしの安心

警察署の再編により、治安の核となる警察署の危機管理機能を強化するとともに、交番・駐在所の整備や子ども・地域安全見守り隊による活動の推進等により、地域の防犯力を向上させます。
また、公共施設の耐震強化や洪水・土砂災害対策など事前の災害対策を推進し、災害から府民の生命や財産を守ります。

【具体的な取組】

- 警察署の再編
〔 左京警察署（仮称・左京区）、中京警察署（仮称・中京区）、下京警察署（仮称・下京区）、伏見警察署、山科警察署及び向日町警察署の管轄変更 〕
- 交番・駐在所の整備（左京区、中京区、山科区、下京区、伏見区）
- 京都府民ステーション（仮称）構想等に基づく七条警察署跡地の整備（下京区）
- 府民協働防犯ステーションの設置推進
- 子ども・地域安全見守り隊の活動推進
- 京都府消費生活安全センターでの消費生活相談の実施、悪質商法徹底撃退事業の実施
- 住宅の耐震強化
- 警察施設の耐震強化（上京警察署（上京区））
- 府立学校の耐震強化
- 鉄道駅舎の耐震強化（京阪深草駅（伏見区））
- 桂川（直轄区間）、鴨川、山科川支川・旧安祥寺川（山科区）などの治水対策の推進
- 丹住谷川（左京区）等の土砂災害対策の推進
- 府営農業用河川工作物の応急対策（南区、伏見区）
- 国営附帯府営農地防災（伏見区）
- 雨水北幹線2号・3号管渠工事（いろは呑龍トンネル）（南区、西京区）

地域共生の実現

(1) 人権尊重

京都の歴史と伝統、特に学術をはじめとする文化の蓄積を基礎に、人権問題について広く世界的視野に立った総合的な調査、研究を行うことを目的として設立された財団法人世界人権問題研究センターの取組の支援等、関係機関と連携したあらゆる場や機会を通じた人権教育・啓発の取組などにより、人権問題への理解を促進します。

【具体的な取組】

- 財団法人世界人権問題研究センター（中京区）の取組支援

(2) 地域力再生

暮らしやすい魅力的な地域をめざして、府民一人ひとりが考え、地域課題の解決に向けて行動する力を引き出し、地域づくりや公共事業等にいかします。

【具体的な取組】

- 地域力再生の推進
- 府民公募型安心・安全整備事業の推進
- 都市住民に対する安らぎと憩いの場（空間）の提供（市民農園、体験農園の開設支援）（伏見区）

(3) 新たなコミュニティづくり

多様な世代間の交流、まちなかのにぎわい創出など、地域社会の課題に的確に対応するため、既存住宅団地の再生支援に取り組みます。

【具体的な取組】

- 府営住宅桃山日向団地（伏見区）の建替、京都府住宅供給公社堀川団地（上京区）の再生支援

(4) 男女共同参画

「京都府家庭支援総合センター」を核として、府域全体でドメスティック・バイオレンス被害者の安全な生活を支援するとともに、「京都府男女共同参画センター」を拠点として、情報発信や自立支援、交流機会づくりなどを推進します。

【具体的な取組】

- 京都府家庭支援総合センター（東山区）でのドメスティック・バイオレンス被害者支援などの取組強化
- 京都府男女共同参画センター（南区）での取組強化
- ワーク・ライフ・バランスセンターの開設

(5) ふるさと定住

ふるさとに住み続けるために必要な生活基盤を整備するとともに、農山村の暮らしの利便性を高め、ふるさとの魅力を向上させます。

【具体的な取組】

- 里力再生の推進（左京区、右京区）
- 野生鳥獣被害に係る総合対策の推進

京都力の発揮

(1) 人づくり

ものづくり産業の振興を目的として、知識と技能を兼ね備えた未来の職人を養成するとともに、京都の強みである観光や映画・映像芸術などの新しい分野で成長をリードしていく人材の育成や、人材のネットワークづくりを進めます。

また、「大学のまち京都」を推進する「公益財団法人コンソーシアム京都」等と連携し、学生自らが企画運営を行う「京都学生祭典」を支援します。

【具体的な取組】

- ものづくり、介護・福祉など「京都の未来を担う人づくり」の推進
- 観光、映画・映像芸術などの分野における人材育成、人材バンクの創設
- 「京もの認定工芸士」等次世代リーダーの育成支援
- 京都学生祭典開催への支援（左京区、下京区）

(2) 環境の「みやこ」

京都議定書誕生の地として、温室効果ガスの大幅な削減に向けた取組を府市協調で進めます。

また、住民、NPO、企業等との連携・協働を進め、良好な河川環境を保全するとともに、鴨川などの公共空間整備を通じて、流域における水と緑の優れた自然環境を守ります。

【具体的な取組】

- 温室効果ガス排出削減対策の推進
- 「KYOTO地球環境の殿堂」及び「京都環境文化学術フォーラム」の推進
- 鴨川公共空間の整備（北区～南区・伏見区）
- 嵐山公園（右京区）及び伏見港公園（伏見区）の整備
- 西高瀬川（右京区）の環境整備
- 森林病害虫等防除対策の推進

(3) 文化創造

北山地域を拠点として、文化、環境、学術の新たな交流・発信拠点となるゾーンを形成するとともに、京都のシンボルである鴨川を核にして、周辺に立地する文化産業スポットをネットワーク化した文化回廊を創造します。
また、永きにわたって京都に蓄積されてきた文化財などのストックを保存・継承し、発展させます。

【具体的な取組】

- 北山文化環境ゾーン構想（※1）の推進（左京区）
- 京都文化博物館（中京区）の再整備
- 伝統伎芸振興支援助成（上京区、中京区、東山区）
- 祇園祭山鉾懸装品の新調（中京区、下京区）
- 歴史的建造物等の保存伝承（北区、左京区、中京区、東山区、南区）
- まちかど美術館の推進（上京区、中京区）
- 文化創造ネットワークの構築（中京区）
- 水辺の回廊整備・鴨川創造プランの推進（北区～南区・伏見区）

※1)

北山地域において、国際京都学センターを新たに設置する新総合資料館（仮称）、教養教育共同化施設（仮称）、植物園を核として、府民の憩いの場とともに、文化・環境・学術の新たな交流・発信拠点となるゾーンを形成

(4) 産業革新・中小企業育成

中小企業の緊急的な資金需要に対応するとともに、国の緊急保証制度に対応した制度融資を継続実施し、中小企業の経営安定や再生を府市協調により支援します。

また、試作、健康、環境、映画・映像産業関連分野等の「新京都ブランド」の確立に向けた積極的な支援、和装・伝統産業の再生・発展に向けた職人さんの仕事づくりや技術継承、次代を担う人材育成など産業の基礎づくりとなる施策に積極的に取り組むとともに、歴史、伝統、文化、自然、景観、産業など京都ならではの観光振興を推進します。

【具体的な取組】

- 中小企業金融対策の推進
- 京都産業育成機構（仮称）の創設
- 健康創出産業の育成
- 知恵産業首都構想（※2）の推進
- 映画・映像・コンテンツ産業の振興
- 京都太秦メディアパーク構想（※3）の推進（右京区）
- 西陣SOHOの推進（上京区）
- 老舗企業のネットワーク化
- 伝統産業体験工房・京都の整備
- 京もの工芸品産地の振興
- 京都総合観光案内所の運営（下京区）
- 京都・花灯路の推進（東山区、右京区、西京区）
- 京の七夕の推進
- 丹波広域基幹林道の建設、林道の改良（左京区、右京区）
- 農林水産物や加工品等のブランド化の推進

※2)

次代を切りひらく産業イノベーションをリードする「京都産業育成機構」を創設し、知恵を集め、知恵を学び、知恵をいかす中小企業が元気に世界で活躍する知恵産業のまち・京都を形成

※3)

太秦地域に映画制作・編集・配信等の技術開発や、コンテンツ系ベンチャーの育成支援、国際交流、観光振興、人材育成等の機能をあわせ持つ一大メディア産業拠点を形成

(5) 交流連帯

鉄道や道路などの交通基盤を整備し、市域の内外の移動に係る利便性を高めます。

【具体的な取組】

- 地域鉄道事業者の安全性向上のための設備整備（左京区、中京区）
- JR奈良線の複線化の推進（伏見区）
- 阪神高速道路8号京都線（斜久世橋区間）（南区）の建設
- 京都西立体交差事業（国道9号千代原口交差点の立体交差化）（西京区）
- 京都第二外環状道路の整備（西京区）

② 地域間交流・連携プログラム

現 状 ・ 課 題

◇府域の南北を結ぶ基幹的な交流基盤が概成しつつある現状を受けて、それらの交流基盤をこれまで以上にいかし、その整備効果を最大限地域の活性化や府民満足の最大化に結び付けていく視点が求められています。

対 応 方 向

○「中期計画」及び各広域振興局が策定する「地域振興計画」に掲げられた各構想の展開によって生じる効果を府域全体に浸透させるため、それらを有機的に結び付ける交流・連携プログラムの企画を進めます。

プログラム名	概 要
○ 京都舞鶴港活用・物流プログラム	府中南部地域も含めた府内企業の利用を促進するため、府北部地域への鉄道等交通網の利便性を向上するとともに、日本海側諸港との連携を図り、北東アジア・ランドブリッジを活用した新たな物流ルートの開拓や太平洋側のバックアップ機能の強化など、関西や東海といった巨大な経済圏の日本海側のゲートウェイとしての機能を戦略的に強化します。
○ 京都舞鶴港活用・人流プログラム	豊富な観光資源を有する京都や関西の特性をいかして、国際フェリーやクルーズ船、成長著しい中国をはじめとした対岸諸国からの観光客、リピーターが期待できる教育旅行の誘致を推進するとともに、長距離フェリーを使った北海道から関西への観光誘客を図るなど、京都舞鶴港を核とした人的交流を拡充します。
○ 世界の食・京都プログラム	関西文化学術研究都市など山城地域に整備する環境・アグリバイオの研究拠点で開発した技術を、丹後地域の「丹後・食の王国」、南丹地域の「丹波ブランド王国」で活用するとともに、その生産物を中丹地域の「京都舞鶴港ランドブリッジ」を通じて海外へ輸出します。
○ 旬・地元自慢食プログラム	京都縦貫自動車道の整備などによる府内各地域間の時間距離の短縮効果をいかし、府北部地域のブランド海鮮食材を京都市や山城地域へ移送し、地産地消、旬産旬消を拡大するとともに、地元産のみならず、遠隔地の素材も使用したブランド食品化の取組を各地で展開します。
○ 心も体も健康京都プログラム	府北部地域において、がん・認知症の緩和ケアを行う病棟などを整備するとともに、周辺にウエルネス関連企業等を誘致し、国内の患者のみならず、「京都舞鶴港ランドブリッジ」を通じて広く海外の患者も受け入れます。

プログラム名	概要
○ 豊かな長寿社会創造プログラム	山城地域のウェルネス関連企業等が中心となり、大学等と連携してICTを駆使した次世代型シルバータウンなどを企画するとともに、林業大学校と連携してオール木づくりのバリアフリー住宅を考案し、中丹地域や丹後地域で、高齢者が暮らしやすいモデルタウン等を実験的に整備します。
○ あこがれセカンドライフプログラム	丹後地域や中丹地域、あるいは南丹地域に、地元材を活用して週末居住、二地域居住用の農園付き農村コテージを開発し、高速道路の低料金化等の流れもいかして、京阪神地域の都市住民等を誘導しながら、豊かな農村生活を提供します。
○ コンテンツの都づくりプログラム	世界的なゲームメーカー、「京都太秦メディアパーク」「日本海観光」等を結び付け、山陰海岸ジオパーク、世界文化遺産登録をめざす天橋立などがある丹後地域をロケ地として、日本海の雄大な自然のもとで若手の映像技術者が映画制作等を行い、世界に向けて配信します。
○ 次世代産業創造プログラム	京都市内に創設する「京都産業育成機構（仮称）」のもと、農林水産業も含めて、環境産業、文化産業など、世界的にまだビジネスモデルが確立していない分野で、新しい時代に成長・発展可能なビジネスモデルを開発し、府内各地域でパイロット実験を行いながら実用化を図ります。
○ 感性・生活文化創造プログラム	京都市内を中心とした日本一の伝統工芸産業の集積、南丹地域の京都新光悦村や丹後の絹織物産地などが連携し、本物を求める世界のニーズにこたえる感性豊かな新しい生活文化産業を育成します。
○ 質の高い巡礼観光プログラム	「食文化」と「匠の技」をテーマに、文化とのかかわり、ものづくりの精神（こころ）など、奥深い魅力をいかしたプロジェクトを府内各地域・分野の人々と協働して展開し、観光誘客の推進を図ります。
○ 感性豊かな青少年育成プログラム	豊かな自然や歴史文化、先端科学研究など、府内各地域の特色をいかした農林漁業体験プログラムや歴史・科学体験プログラムなどを作成し、府内各地域の青少年が交流できる体験事業を実施します。
○ 大学資源の展開プログラム	府内各地域と大学との連携を強化し、共同研究やフィールドワークなど大学の有する研究成果や技術、研究者や学生など様々な知的・人的資源を、地域の課題解決や人づくり、産業おこしなどに幅広く展開する地域連携の取組を推進します。
○ 地球環境との共生プログラム	丹後の海、丹波の山、京都の川、山城の茶畑などのもとではぐくまれた、自然との調和を基本にした京都の環境調和型生活文化をもとに、「地球環境の殿堂」入りの人々とも連携して、世界に通じる環境ライフスタイルを創造し、広く発信します。
○ グレーター学研創生プログラム	JR奈良線の複線化により通勤・通学圏が広がるとともに、関西文化学術研究都市へのアクセスも飛躍的に向上する山城地域において、豊かな自然環境やスポーツ施設等をいかしながら、企業立地や大学施設の移設など学研都市周辺の開発を推進します。